

# ところ会 4月 OP 行事案内

## 狭山三十三観音を巡る 第2回

狭山湖周辺にある狭山三十三観音を4回分けて周ります。  
今回は第9番梅岩寺～第16番三光院までです。

### 記

- 日 時：平成29年4月27日（木）  
9:10 東村山駅改札出口付近に集合して下さい。
- 見学場所及び時間：コース全長 約8.5km  
東村山駅(9:10)⇒9番梅岩寺(10番龍谷寺)⇒11番徳蔵寺・  
12番永春庵⇒東村山ふるさと歴史館⇒13番正福寺⇒昼食12:00～  
⇒14番寶珠禅寺⇒15番清水観音堂⇒16番三光院  
⇒武蔵大和駅…西武遊園地駅…西武球場前駅…  
所沢着(予定時間15:30頃)
- 昼食：[ロスティバーレ](#)(イタリアン) 12:00～ 042-394-2369



**鎌倉街道**：「東村山市指定遺蹟鎌倉古道趾」という木造の碑があります。

**白山神社**：イザナギノミコトを祀っています。境内には石造り丸彫坐像の**牛頭天王**（ござてんのう）像があり東村山市の文化財に指定されています。

牛頭天王は頭に牛頭をいただいた像で、通称は「天王さま」として知られ、素盞鳴尊を同体とされています。疫病除けの神として知られていますが、家内繁栄や招福の神としても信仰されました。

**立川家**：立派な長屋門があります。日蓮上人が佐渡に配流途上に、宿泊した所です。文永8年10月10日に久米川宿に泊ったという記録があり、立川家では毎年10月10日にお会式を行っていたそうです。

鎌倉街道上道は新田義貞が進撃した道であると同時に日蓮上人が流刑地の佐渡へ向かう道でもありました。⇒立川家は分譲住宅になっていました。

### 9 番梅岩寺：正観音

梅岩寺は真言宗白華山観音寺として応永5年（1397）創建と伝えられ、戦国時代の兵乱で焼失、曹洞宗芳林山梅岩寺と改号慶安4年（1651）阿山呑硯が中興したといわれています。

明治時代前後に、10 番瀧谷寺を合併しています。当寺にあった正観音像（火災で焼失）は慈覚大師の作で足利尊氏開運の靈佛であ

ったと伝えられるほか、徳川家より寺領10石を受領していることから、寺紋には足利家の丸に二引紋、徳川家の葵紋を用いています。市内で現存する最も古い庚申塔や、四国霊場巡りと同じ功德が得られるという新四国石仏など、文化財も多いです。

山門の左右にあるケヤキ（樹齢700年、幹周7.1m、都天然記念物）、カヤ（樹齢600年、市天然記念物）が見ものです。



龍谷寺石碑

### 10 番龍谷寺：千手観音

龍谷寺は廃寺となりましたが、梅岩寺参道に石碑として残っており、第十番龍谷寺の文字が見えます。龍谷寺の御朱印は梅岩寺で頂きます。

**熊野神社**：創建年代は不詳ですが、元弘3年（1333）久米川の合戦の時に新田義貞が後詰を置いた所といい、久米川村の鎮守として崇敬を集めました。境内にある塚は明治21年に作られた富士塚で市史跡になっています。



熊野神社の富士塚

本殿は明治14年本殿再建当時の古い形式を伝えており、その際に有栖川熾仁親王より直蹟二軸を拝領したといえます。



### 11 番徳蔵寺：白衣観音

福寿山徳蔵寺は、臨済宗大徳寺派に属している寺で、開山は元和年間（1615～1624）であるといわれています。ここには、長久寺を開基した久阿弥陀仏という勸進聖によって新田義貞の鎌倉攻めの際に討死した飽間一族の供養のため建てられた「元弘の板碑」があります。

新田義貞の鎌倉攻めは太平記に描かれていますが、その内容の信憑性に疑問が抱かれていました。板碑に書かれている元弘3年5月15日は、太平記で分倍河原の合戦が行われたとする日と一致することから太平記に対する歴史資料としての評価が変わったため**国指定重要文化財**となっています。

### 12 番永春庵：聖観音

永春庵は八国山将軍塚の南、丘の中腹にありましたが、江戸中期に徳蔵寺内に移されています。元弘の板碑はここにあった物ですが、現在は徳蔵寺の板碑保存館に所蔵されています。



元弘の板碑

### 東村山市ふるさと歴史館

ここで、小休憩&トイレです。

ふるさと歴史館にはレプリカの**元弘の板碑**、次に行く正福寺にある**貞和の板碑**、**国宝千体地藏堂**の模型、**瓦塔**の模型などがあります。

**貞和の板碑**：都内最大級の板碑で、高さ285センチメートル・幅55センチメートル。小瀬川（現在の前川）の橋桁に使われ、この碑銘が川面に映って見えるので「経文橋」又は「念仏橋」と呼ばれていました。板碑は**正福寺境内に保存**されています。



**瓦塔**：宅部山遺跡から発掘された奈良時代のもの。東京国立博物館にて復元所蔵されている。

宗良 卅五 於相 州村 岡十 八日 打死	同孫 七家 行廿 三同 死飽 間孫 三郎	元弘 三年 癸酉 五月 十五日	於武 州府 中五 月十 五日 令打 死	飽間 斎藤 三郎 藤原 盛貞 生年 廿六
	執筆 遍阿 弥陀 仏	敬白		勸進 久阿 弥陀 仏

### 13 番正福寺：千手観音

正福寺は1278年北条時宗が創建したと伝えられる臨済宗の寺です。そして境内の千駄地蔵堂は国宝建造物として有名です。

国宝の建造物は関東では日光の「東照宮・大猷院霊廟」、鎌倉の「円覚寺舍利殿」（通常非公開）、東京の「赤坂迎賓館」とここの地蔵堂しかありません。鎌倉の円覚寺舍利殿とともに禅宗様建築の代表的遺構で、昭和8、9年の改修の際に発見された墨書銘により、室町時代の1407年（応永14）建立とされています。

堂内には延命地蔵菩薩とその周りや長押に小地蔵が並んでおり、祈願する人は、この像を一体借りて家に持ち帰り、願いが成就すれば、もう一体を添えて奉納するそうです。

地蔵堂の内部は、8月8日、9月24日、11月3日の3日間一般公開され多くの人で賑わいます。



### 14 番寶珠禅寺の御朱印は正福寺で

昼食：12:00～13:00 [レストラン・イタリアーノ・ロ・スティヴァーレ](#)

・前菜、パン、パスタ、ドルチェ、カフェ 1,290円(税込み)

料理提供時間を勘案してメニューは上記1種類に決めました。

なお、パスタは数種類あるのでメニューが決まり次第連絡しますので選択して下さい。もちろん飲み物は自由です。

### 光明院不動堂：応永の板碑

仏道について志を同じくして縁を結んだ人々を結縁衆とも、結衆(けちじゅう)とも称し、後世の講中に類似したものだが、この板碑は法華経帰依の130人にもものぼる信者が結衆し建立した法華経読誦供養の塔で、中央に「口誦妙経一百三十六部」と刻まれ、法華経信仰を同じくする多くの人々によって応永十三年(1406)に建てられた。「法華経読誦塔」ともよばれます。



現在は上下二片となっており、現存総高1.67m 上部が欠損し、下部が埋没しているので原形は優に2mを超えと思われる。応永年間この地域の住民の間で活発に法華信仰が行われたかを物語るものです。

薬師堂の堂内には鎌倉時代作の木造薬師如来坐像(峯薬師・東村山市指定文化財)が祀られています。

## 14 番寶珠禪寺：如意輪観音

臨濟宗建長寺派寺院の寶珠寺は、福聚山と号します。寶珠寺の創建年代は不詳ですが、他所で廃寺となった寺号を当地へ移し、正福寺末寺として中興したといえます。



**延命地蔵**：東村山市内では一番古い石造地蔵菩薩立像である。寛文8年(1668)に「廻田村善男女十一人」によって造立されたものです。17世紀も半ばを過ぎると、村人の手でこうした信仰の石造物がつくられるようになり、農民の生活にも少し余裕が出てきたと言われています。

## 15 清水観音堂：聖観音

清水観音堂の創建年代等は不詳ながら、新編武蔵風土記稿では貞治7年(1368)銘の古碑があったといい、古くより祀られていたのではないかと推定できます。本尊は、聖観世音菩薩で、作者は行基といわれ、長さ一尺五寸(約45cm)の立像が安置されています。多摩八十八ヶ所霊場15番に指定されています。



御朱印は第16番・三光院で

## 清水本村橋の石橋供養塔

天保4年(1833)前川に石橋を架けた際に建立されたものです。清水本村橋の南たもとにあったが、平成16年人道橋の設置にともなって現在地に移動された。



## 16 三光院：千手観音

創建年代は不詳ですが、開山した住職が延文2(1357)年に亡くなったという記録があります。大正12(1923)年に現在地へ移転するまでは、下貯水池の取水塔付近にありました。東大和市内では徳川氏から土地を与えられた唯一の寺院で、寺領3石と境内1万坪を持っていました。15通の朱印状(内3通は氷川神社宛)が市指定文化財(市重宝)となっています。



帰路：武蔵大和駅(多摩湖線)―西武遊園地(山口線)―西武球場前

以上